

# 北海道増毛町における 祝言のあいさつ

小野米一

## ○はじめに

1. 対象地の地理的環境：北海道の北西部、留萌地方の最南部で、日本海に面している。
2. 対象地の社会的経済的環境：鰯漁場として発達し、かつては留萌支庁が置かれたほど栄えたが、昭和30年代から過疎化が急速に進んでいる。
3. 生業：漁業およびその関連産業が主であるが、農業（果樹・稻作）も、留萌市への通勤も増えてきている。
4. 交通：JR留萌本線の終点で、普通列車のみ一日に6～7便。バスは留萌・深川・旭川方面に多数。道路は海岸沿いの国道231号線が札幌まで開通した。
5. 人口：約8000人。
6. 調査年月日：1990年8月9日
7. 方言話者：  
①鳥辺義平 明治44年11月7日生（79歳）  
②山本武雄 大正2年1月29日生（77歳）
8. 調査者、調査場所：小野米一、増毛町コミュニティーセンター
9. 調査方法：質問法によって、お二人ごいっしょにそれぞれご教示をいただいた。表現の品性、新古、情感などについては、一切触れることができなかった。

## I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

②ホンジツワ オメデトゴザイマス。ムコサマ ダレソレノ チヨーナンノ ヨメトシテ コチラサマノ ジジョ ナニナニサマトノ コンヤクガ トトノイマシテ ワタクシ フショーナカウドシテ ケケンモ ゴザイマセんケレドモ ナカウドヤクトシテ ホンジツ ユイノーオ ジサンイタシマシタ。ヨロシクオネガイイタシマス。本日はおめでとうございます。婿様だれその長男の嫁として、こちらさまの次女何々様との婚約が整い

まして、私不肖仲人として、経験もございませんけれども、仲人役として、本日結納を持参いたしました。よろしくお願ひいたします。<と言って、ご両親の前に結納品をさします。>

④ワタクシワ マシケノ トリベヨシヘートユー モノデス。コノタビ ゴリョーニンノ ナカウドオ ヒキウケルコトニ ナリマシタ。スエナガク ゴコーリオ イタダケレバ サイワイト オモイマス。キョーワ オヒガラモ ヨロシーノデ ユイノーオジサンイタシマシタ。ヨロシク ゴジュノイタダキタイト オモイマス。私は増毛の鳥辺義平という者です。この度、ご両人の仲人を引き受けことになりました。末永くご交誼をいただければ幸いと思います。今日はお日柄もよろしいので、結納を持参いたしました。よろしくご受納いただきたいと思います。

多くは本人たちが仲良くなつてから話を進めることになるので、その話を取り決めるために、酒を持ってあいさつに行く。そのときのあいさつの例。（ここで話を取り決めてから、このあと、正式に仲人を立てて、結納を持っていく。）

⑤マシケノ トリベデス。シンローニナルヒトノ オジデス。コンゴトモニ ヨロシク オネガイイタシマス。増毛の鳥辺です。新郎になる人の叔父です。今後ともによろしくお願ひいたします。

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。
3. その時の新婦のあいさつがあれば記してください。

結納は父親に贈る物ではなく、嫁になる娘に贈る物だから、まず娘のほうがあいさつをする。そのあとで父親があいさつをする。

⑥<娘>スエナガク オウケイタシマス。末永くお受けいたします。  
<父親>ヨロシク オネガイシマス。よろしくお願ひします。

## II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

⑦ダレゾレサン（長男）ノ ケッコン キマッテ ホントニ ヨカラッタデス ネー。オイワイシマス。だれそれさんの結婚が決まってほんとによかったですねえ。お祝いします。

2. 嫁をもらう家的人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつを

しますか。

④ドーモ アリガトーゴザイマス。オカゲサマデ ムスコノ ヨメ  
モ キマッテ オヤトシテ ジブンタチモ ヨロコンディマス。  
コレデ アンシンシマシタ。ムスコモ コレデ モー イチニン  
マエニナッテ オーイニ フンバッティクト オモイマス。どう  
もありがとうございます。おかげさまで息子の嫁も決まって、親  
として自分たちもよろこんでいます。これで安心しました。息子  
もこれでもう一人前になって、おおいにがんばっていくと思いま  
す。

⑤ゴンゴトモ ミナサンニ メーワク カケルコトモ アルカモ  
シランケドモ キヨクリョク トニカク ムスコニ イーキカセ  
マスノデ ワルイトコロワ ココロズキノテンワ ワタクシノホ  
ーニ オシラセクダサイ。コンゴ フタリノ シアワセノタメニ  
オコロズケオ イタダケレバ サイワイト オモイマス。今  
後とも皆さんに迷惑をかけることもあるかもしれないけれども、  
極力とにかく、息子に言い聞かせますので、悪いところは、心づ  
きの点は、私のほうにお知らせください。今後二人の幸せのため  
に、お心付けをいただければ幸いと思います。

### III. 嫁に出すことが決まった家の人にへのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさ  
つをしますか。

⑥ダレソレサン（娘さんの名前） オヨメニ イクノガ キマッテ  
ホントニ オメデトーゴザイマス。ホントニ ヨカッタデス  
ネー。だれそれさん、お嫁に行くのが決まって、ほんとにおめで  
とうございます。ほんとによかったですねえ。

⑦アーヨカッタ ネー。キマッテ ヨカッタ ネー。コンゴ コ  
ーフクニ ナレバ イー ネー。ああ、よかったです。決まって  
よかったです。今後幸福になればいいねえ。

2. 嫁に出す家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをし  
ますか。

⑧マー イタラナイ ムスメダレドモ ヨロシク オネガイシマ  
ス。コンゴトモ ヨロシク オネガイシマス。まあ、至らない娘  
だけれども、よろしくお願ひします。今後ともよろしくお願ひし

ます。

④ドーカ コーカ キマッテ マー ヨメニ デタノデ コノウチ  
ニ イルノト オンナジニ ベンゴトモ トニカク ゴヨーギオ  
オネガイシマス。どうかこうか決まってまあ嫁に出たので、こ  
の家にいるのと同じように、今後ともとにかくご交誼をお願いし  
ます。

#### IV. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは（親戚以外）、どのようなあいさつをしますか。

1. 新郎の父親にどのようにあいさつをしますか。

⑤オメデトーゴザイマス。おめでとうございます。

⑥ホンジツワ ムスコサンノ ゴケッコン オメデトーゴザイマ  
ス。コノ オメデタイ シキニ オマネキイタダキマシテ マコ  
トニ アリガトーゴザイマシタ。シンブノ オヨメサンワ ムス  
コサントワ ニアイノ カタダト オモイマスノデ ホントニ  
ホンジツノ ゴケッコンオ ココロカラ オイワイモーシアゲマ  
ス。本日は、息子さんのご結婚おめでとうございます。このおめ  
でたい式にお招きいただきまして、まことにありがとうございます。  
新婦のお嫁さんは息子さんとはお似合いの方だと思います  
ので、ほんとに本日のご結婚を心からお祝い申しあげます。

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

⑦アリガトーゴザイマス。コンゴトモ ヨロシク オネガイシマ  
ス。ゴシドーイタダキタイト オモイマス。ありがとうございます。  
今後ともよろしくお願ひします。ご指導いただきたいと思  
います。

⑧オイワインノ コトバ イタダキマシテ マコトニ アリガトーゴ  
ザイマス。イキトドカナイ ムスコテワ ゴザイマスケレドモ  
スエナガク タレソレサント ナカヨク カテーオ キズイテ  
イキタイト オモイマスノデ コンゴトモ ヨロシク オネガイ  
シマス。お祝いのことばをいただきまして、まことにありがとうございます。  
行き届かない息子ではございますけれども、末永く  
だれそれさんと仲良く家庭を築いて行きたいと思いますので、今  
後ともよろしくお願ひします。

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

⑤ホントニ キレーナ ヨメサンデシタ。オメデトーゴザイマス。

ほんとにきれいな嫁さんでした。おめでとうございます。

⑥オトーサン オカーサン オメデトーゴザイマス。コレデ オトーサンモ オカーサンモ ムスメサンノ リッパニ ホンジツケッコンヒローエンサレテ ホントニ オメデトーゴザイマス。アンシンサレタデショ。コンゴ シンローシンブノ シアワセオ イノッテオリマス。お父さん、お母さん、おめでとうございます。これでお父さんもお母さんも、娘さんの立派に本日結婚披露宴をされて、ほんとにおめでとうございます。安心されたでしょう。今後、新郎新婦の幸せを祈っております。

2-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

⑦アリガトーゴザイマス。オイワイノ オコトバオ イタダイテココロカラ オレーオ モーシアゲマス。イタラヌ ムスマデワアリマスケレドモ ナニカニト ミチサマノ コンゴトモ オセワニナルト オモイマスケレドモ スエナガク ヨロシク オネガイイタシマス。ありがとうございます。お祝いのおことばをいただきて、心からお礼を申しあげます。至らぬ娘ではありますけれども、何かにと、皆様の今後ともお世話になると思いますけれども、末永くよろしくお願ひいたします。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回るという習慣はない、とのことである。

VI. 嫁を迎えた家人へのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳代の父親へ、結婚式に招かれた50歳代の女性が、昼下がりの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

⑧ヨカッタ ネー。ホントニ リッパナ ケッコンシキテ ヨーゴザイマシタ ネー。よかったですねえ。ほんとうに立派な結婚式でようございましたねえ。

⑨コナイダノ ケッコンシキニワ マネカレマシテ アリガトーゴザイマシタ。タイヘン セーダイナ ヒローエンテ ホントニ

ヨカッタデス ネー。オメデトゴザイマス。スエナガク フタリノ シアワセオ イノッテオリマス。こないだの結婚式には招かれましてありがとうございました。大変盛大な披露宴で、ほんとによかったです。おめでとうございます。末永く二人の幸せを祈っております。

2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

- ⑥ヒローエンニ ゴシュッセキオ イタダキマシテ ホントーニ  
アリガトゴザイマシタ。コンゴトモニ ヨロシク オネガイシ  
マス。披露宴にご出席をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。今後ともによろしくお願ひします。
- ⑦コノタビワ ホントーニ ヒローエンニ ゴシュッセキオ イタ  
ダキマシテ アリガトゴザイマス。コンゴトモニ ヨロシク  
ゴシドーイタダキタイト オモイマス。この度はほんとうに披露  
宴にご出席をいただきましてありがとうございました。今後ともに  
よろしくご指導いただきたいと思います。
- ⑧ドーモ オイワイン オコトバ イタダイテ アリガトゴザイ  
マス。コナイダワ オイソガシートコロ ムスコノ ヒローエン  
ニ (シュクガカイニ) オイディタダキマシテ ホントニ ア  
リガトゴザイマス。ムスコモ オーゼーノ カタヨリ シュク  
フクイタダキマシテ シンローシンブモ ヨロコンデオリマス。  
マダ ワカイ フタリデワ ゴザイマスケレドモ コレカラ シ  
ヤカイニ デルワケデ ゴザイマスケレドモ ドーゾ ミナサマ  
ノ スエナガク オツキアイイタダキマシテ ヨロシク ゴコン  
イニ オネガイイタダケレバ シアワセデ ゴザイマス。ホント  
ニ ドーモ アリガトゴザイマシタ。どうもお祝いのおことば  
をいただいたありがとうございます。こないだはお忙しいところ、息子の披露宴に(祝賀会に)おいでいただきまして、ほんとにありがとうございます。息子も大勢の方より祝福いただきまして、新郎新婦もよろこんでおります。まだ若い二人ではございますけれども、これから社会に出るわけでございますけれども、どうぞ皆様の末永くお付き合いいただきまして、よろしくご懇意にお願いいただければ幸せでございます。ほんとにどうもありがとうございます。

## VII. 結婚式後の仲人へのあいさつ

### 1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

仲人の所へは、本人たちがそろってお礼のあいさつに行く。両親がいっしょに行くということはないのではないか、とのこと。

⑤コフタビワ ワタシドモノ ケッコンシキニ アタリマシテ ナ  
カウドサマニワ イロイロト ドーモ オセワニナリマシテ ア  
リガトーゴザイマシタ。マダ ミジュクナ ワタシドモデワ ゴ  
ザイマスケレドモ フタリ チカラオ アワセテ コンゴトモ  
シンセーカツニ ムカッテ イッショーケンメー ガンバッテ  
イキタイト オモイマスノデ コンゴトモ ヨロシク ドーゾ  
ゴシドーノホド オネガイシマス。ホントニ アリガトーゴザイ  
マシタ。この度は私どもの結婚式に当たりまして、仲人様にはい  
ろいろとどうもお世話になりました、ありがとうございました。  
まだ未熟な私どもではございますけれども、二人力を合わせて、  
今後とも新生活に向かって一生懸命がんばっていきたいと思いま  
すので、今後ともよろしくどうぞご指導のほどお願ひします。ほ  
んとにありがとうございました。

⑥コノタビワ バイシャクオ イタダキマシテ ホントー三 アリ  
ガトーゴザイマス。コンゴワ フタリガ チカラオ アワセテ  
シャカイノ アラナミオ ノリキル カクゴデゴザイマスノデ  
コンゴトモ ヨロシク ゴシドーイタダキタイト オモイマス。  
コフタビワ ドーモ アリガトーゴザイマシタ。この度は媒酌を  
いただきまして、ほんとうにありがとうございます。今後は二人  
が力を合わせて社会の荒波を乗り切る覚悟でございますので、今  
後ともよろしくご指導いただきたいと思います。この度はどうも  
ありがとうございました。

### 2. 仲人は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

⑦オフタリトモ ケッコン オメテトーゴザイマス。フナレナ ジ  
ブンタチデシタガ タイヤクノ ナカウドモ オカゲデ ブジ  
ツトメマシタ。オフタリノ スエナガク シアワセニ クラシマ  
スヨー イノッテオリマス。ホンジツワ ドーモ ゴテーネーニ  
イラシティタダキマシテ アリガトーゴザイマシタ。お二人と  
も結婚おめでとうございます。不慣れな自分たちでしたが、大役

の仲人も、おかげで無事つとめました。お二人の末永く幸せに暮らしますよう、祈っております。本日はどうもご丁寧にいらしていただきまして、ありがとうございました。

④コノタビワ ドーモ オメデト。イママテト チガッテ ヲン  
ドワ シャカイノ セーカツノ ダイイッポオ フミダシタ ワ  
ケデスカラ ミナサンニ メーワクオ カケナイヨーナ リッバ  
ナ フーフデアルヨー ココロガケルヨーニ ツトメティタダキ  
タイト オモイマス。この度はどうもおめでとう。今までと違つて、今度は社会の生活の第一歩を踏み出したわけですから、皆さんに迷惑をかけないような、立派な夫婦であるよう、心がけるように努めていただきたいと思います。

#### VII. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

⑤ソレデワ サトニ イッテキマス。それでは里に行ってきます。  
⑥オトーサン オカーサン キョーワ ドーモ アリガトーゴザイ  
マス。ソレデワ ジッカノホーニ イッテキマス。お父さん、お母さん、今日はどうもありがとうございます。それでは実家のほうに行ってきます。  
⑦キョーノ サトガエリ オトーサン オカーサン アリガトーゴ  
ザイマス。ソレデワ オコトバニ アマエテ ジッカニ イッテ  
キマス。今日の里帰り、お父さん、お母さん、ありがとうございます。それでは、おこばに甘えて、実家に行ってきます。

2. 両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

⑧ムコーノ オトーサンヤ オカーサンニモ ヨロシク モーシア  
ゲテクダサイ。ヒマガ アッタラ コチラニモ アソビニ クル  
ヨーニ ツタエテクダサイ。向こうのお父さんやお母さんにもよろしく申しあげてください。暇があったらこちらにも遊びに来る  
ように伝えてください。<こちらの嫁という立場を強調して、論  
して出してやる。>

⑨ムコーノ ゴリヨーシンニ ヨロシク ハナシテクダサイ。ツイ  
テノ トキニワ コチラノホーニモ ゴリヨーシン アソビニ  
クルヨーニ ツタエテクダサイ。向こうのご両親によろしく話し

てください。ついでの時には、こちらのほうにも、ご両親に、遊びに来るよう伝えください。

ここら（増毛町）では、結婚式は会費制の祝賀会で、全部、発起人の人たちがやる。仲人は、当日のための頼まれ仲人で、肩書きのある人に頼むことが多い。両親としても、親戚としても、発起人を一番大事にする。祝賀会当日は、支度から万端全部、発起人が世話をする。

それで、祝賀会の席での、新郎の父親（新郎新婦両家の代表）のあいさつは、たとえば次のようなものであるという。

⑥キョーワ ○○サマゴフサイノ バイシャクニヨリ ココニ ヒ  
ローエンオ オコナウニ アタリマシテ ヒジョーニ コーエー  
ニ ソンズル ワケデゴザイマス。ホッキニンノ カタガタニワ  
イロイロ バンタン オセワオ イタタキマシテ チチオヤワ  
モチロン シンセキイチドーモ ココロカラ オンレーオ モ  
ーシアゲル シダイテゴザイマス。イロイロ ゴシュクジオ チ  
ヨーダイイタシマシタ ライヒンノ カタガタニモ ホントニ  
ミニアマル コエーデ ゴザイマシテ ココロカラ オンレ  
ーオ モーシアゲマス。トクニ ホッキニンオ シュサイシティ  
タタキマシタ ナニナニサマニワ トクダンノ ゴハイリヨオ  
イタタキマシテ ココニ セーダイナル ヒローエンオ オコナ  
ウコトガ デキマシタコトオ ココロカラ オンレーオ モーシ  
アゲタイト オモイマス。今日は○○様ご夫妻の媒酌により、こ  
こに披露宴を行うに当たりまして、非常に光栄に存ずるわけでござ  
います。発起人の方々にはいろいろ万端お世話をいただきま  
して、父親はもちろん、親戚一同も心から御礼を申しあげる次第でござ  
います。いろいろご祝辞を頂戴いたしました来賓の方々にも  
ほんとうに身に余る光栄でございまして、心から御礼を申しあげ  
ます。特に、発起人を主宰していただきました何々様には、特段  
のご配慮をいただきまして、ここに盛大なる披露宴を行うことができ  
ましたことを、心から御礼を申しあげたいと思います。

(北海道大学)